



太陽光発電施設の導入で下水道の経営安定へ — 20年間で11.7億円(見込み額)の売電収益 —

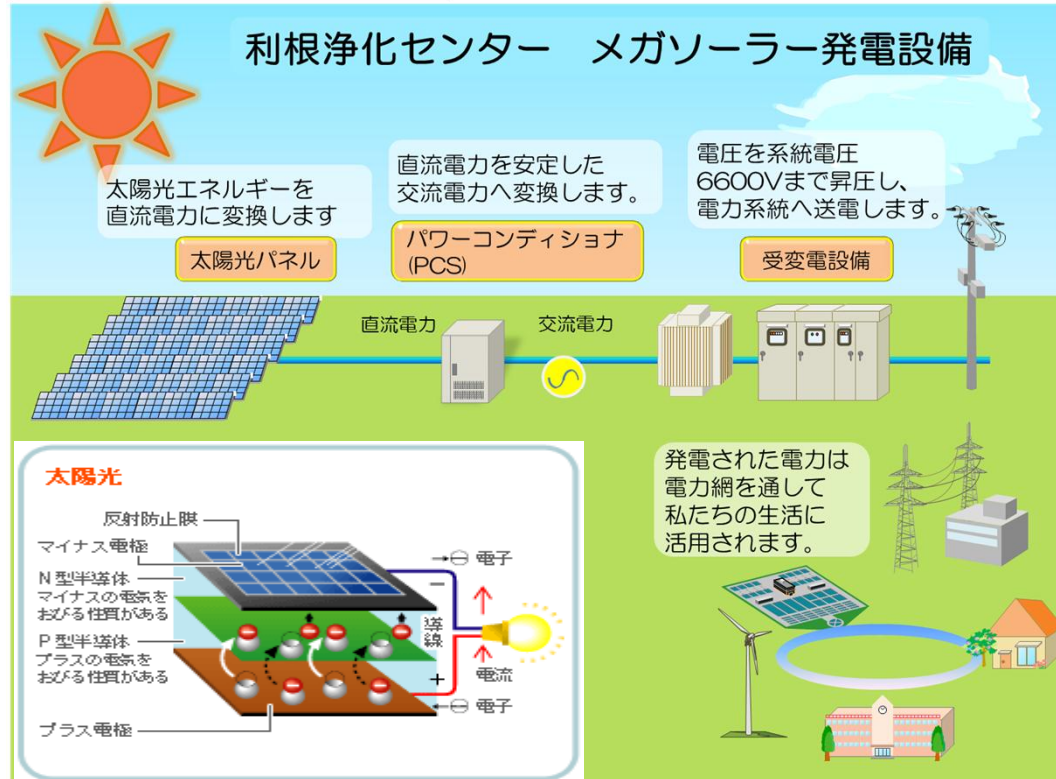
太陽光パネル設置状況



太陽光発電設備発電開始式



発電フロー及び仕組み



はじめに

再生可能エネルギーの活用を図るため、平成26年3月から利根浄化センターにおいて本格稼働しています。発電した電気は全量売電し、下水道施設維持管理費に充当することで、下水道の経営安定に寄与しています。

概要

- 事業箇所：利根浄化センター
- 売電期間：平成26年から20年間
- 発電規模：約2,000kW
(年間約210万kWh発電、一般家庭約440戸の相当)



効果

- 売電利益(見込み)
 - ・年間で5.8千万円の収益 → 20年で11.7億円の収益
 - ・建設費5.7億円を差し引くと、**約6億円の収益**が見込まれ、**これらは全て下水道施設の維持管理費に充当する**
- 温暖化抑制効果
 - ・年間735t - CO₂削減 (年間発電量 × CO₂排出係数で算定)
 - ・石油消費削減量476,700ℓ分 (18ℓポリタンク26,480本分)



今後の課題

発電効率は維持管理等により大きく左右されるため、いかに故障を少なくして稼働率を保ち、設備を長持ちさせるかが重要です。

